



〈企業特集 (第31・32回合同年次学術集会より)〉

## 序文 (巻頭言) : 「生物試料分析に関する新技術の紹介とCOVID-19の最新情報」

杉浦 諭

### Preface: Introduction of New Technologies for Analytical Bio-Science and an Update on COVID-19

Satoshi Sugiura

**Summary** In this feature, among the 15 corporate seminars at the 31st and 32nd Joint Annual Meeting of the Society of Analytical Bio-Science, the following three reports were presented: “Basic study of a (1→3)- $\beta$ -D-glucan assay using colorimetric method on LIMUSAVE MT-7500” (FUJIFILM Wako Pure Chemical Corporation), “Technical introduction of fully automated glucose analyzers -GA series-” (A&T Corporation), and “COVID-19 Testing Diagnosis Prevention Treatment” (Roche Diagnostics K.K.).

**Key words:** Corporate seminars, (1→3)- $\beta$ -D glucan, Fully automated glucose analyzer, COVID-19

第31・32回生物試料分析科学会合同年次学術集会は「臨床検査のピボット～変革を遂げる医療技術を探る～」をテーマに、会場からのライブ配信とオンデマンド配信によるハイブリッド方式にて開催された。様々な内容に富んだ講演やパネルディスカッション、ランチョン企画と学生企画、および一般演題に加えて、生物試料分析に関わる新技術や新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) についての最新情報などを提供していただく目的で企業セミナーが企画され、15の演題応募があった。本特集ではこの中から3報を取り上げる。

まず初めに、富士フイルム和光純薬株式会社からは「『リムセイブ MT-7500』を用いた(1→3)- $\beta$ -D-グルカン測定試薬『 $\beta$ -グルカン シング

ルM30テストワコー』の基礎的検討」と題し、測定に90分を要するカプトガニ血球抽出物であるLAL (Limulus amoebocyte lysate) 試薬を用いた比濁時間分析法を測定原理とする従来製品に対し、カプトガニ血球抽出物と発色合成基質から調整したLAL試薬を用いた発色合成基質法試薬により測定時間を20分と大幅に短縮した新規試薬の基本性能、および(1→3)- $\beta$ -D-グルカンとエンドトキシンの同時測定が可能な分析装置について情報提供していただく。

次いで、株式会社エイアンドティーからは「全自動血糖分析装置 GAシリーズ—2つの $\alpha$ —のご紹介」と題し、採血管を回転させてバーコードを読み取る機能を搭載することで検体仮設時の作業負担を軽減し、グリコヘモグロビン分析

四日市看護医療大学 看護医療学部 臨床検査学科  
〒512-8045 三重県四日市市萱生町1200  
Tel : +81-59-340-1919  
E-mail: sugiura@y-nm.ac.jp

Yokkaichi Nursing and Medical Care University  
Faculty of Nursing and Medical Care  
Department of Medical Technology  
1200 Kayou-cho, Yokkaichi, Mie 512-8045, Japan

計（HPLC）とラック搬送接続することで、グルコースとHbA1cの連続測定が可能であり、さらにメンテナンスのアシスタント機能を強化した全自動血糖分析装置についてご紹介いただく。

最後に、ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社より「COVID-19 検査診断予防治療」と題して、2020年1月以降、全世界で猛威を振っている新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）によって引き起こされるCOVID-19について、ウイルス学的な基礎知識から始まり、変異株と免疫機能、感染増殖と感染経路、続いて感染後の発病、および検査・診断と予防、さらには治療に至るまでを解説していただく。

本学会は、様々な専門分野の幅広い職種の会員から成り立っているが、その活動の中では企業から提供される情報や製品が無くてはならないことは自明の理である。今後も、企業からもたらされる新しい知見や新技術などが新たな発見や技術革新につながり、本会員の皆さまの大

いなる力となり共に発展していくことを願う次第である。

今回の学術集会における企業セミナー 15演題のうち5つが新型コロナウイルス感染症に関するものであり、本特集ではその中から1題を取り上げた。言うまでもなく、COVID-19は人類にとって大きな問題であると同時に、研究者や医療従事者にとっては大いなる関心事でもある。今回の特集による情報提供が、今後の活動の一助となれば幸いである。本稿を書いている2022年12月現在、本邦では第8波が到来し、また感染症法上の位置づけを2類相当から5類相当への見直すことなども検討されているが、このウイルスとの闘いが終わることは暫く期待できそうにない。一個人としては全く無力ではあるが、いつの日かマスク無しで過ごせる日常が戻ることを願いつつ、序文とさせていただきます。

本投稿内容に関する除者の利益相反：なし